副詞の研究（Ⅱ）

半田一吉

今回は ModE において用いられている副詞を総点検して，類別に考察してみたいと思う。COD (Fourth Edition) を用いて，副詞としてあげられているものを全部拾い出し，必要に応じて，出来るだけ OED その他で確認した。COD に一応 adv. の表示のある語は，総数4,446である。勿論他の品詞の語，特に分詞などは，必要なら何時でも副詞として用いられるので，これらは副詞の語数の中には入らないけれども，文中の副詞の頻度には数えられることになる。このような場合を除外しても，副詞の総数の決定は，仕方によって色々変ってくる。たとえば，askance と askant, enough と enow, forby と forbye, tetchily と techily, today と to-day などは，単に spelling その他の variations として，同一のものと考え，それぞれ1語として数えているが，rusticly と rustically のようなものは別に数え，homeward と homewards のような場合や，over と o'er なども，他品詞への転用などの点で異なるので別視し，不規則変化の比較級と最上級 (better, best, worse, worst, more, most, less, least, farther, farthest, further, furthest) は，各用法の特殊性を無視出来ないので，すべて別の語として扱った。その他 COD の編纂者の考えで，rathe は obsolete とされているなど，見る立場によって数はかなり大幅に変ってくることは否定出来ない。特に形容詞に -ly を附して副詞を作る場合は，辞書に明示されていなくても，殆どすべての形容詞が副詞になり得るわけで，このような潜在的なものの数は，無限とは言わないまでも，きりがないので，一応辞書に明示されているものだけに限定したわけである。

又外国語の phrase で，英文中に副詞的に用いられるものが多数収録されていて，これは数の中に入っているが，英語の副詞句（前置詞とその目的語から成るもの）は含まない。併し aback のように，曽っては副詞句であったが現在は1語として固定しているものは勿論，above-board のように hyphen で結ばれているもののほかに，by and by, pro and con, the same など一部の所謂群副詞を例外的に含むこととする。

COD に収録されている全語数の決定は，派生語の数え方など，面倒な問題があって更に厄介であるので，副詞の語数が全体の何％をしめるかは，簡単には決め難いが，8％内外と推定される。前回の「副詞の研究(Ⅰ)」で，多くの文中で用いられる副詞の頻度は6～7％と報告したが，語数と頻度数とは全く別問題であるとは言え，首肯できる数値であると思う。

そこで各種類別に特色を見てゆくことにするが，この分け方は，機能とか意味等一定の基準によって系統的に分類したものではなく，ごく便宜的なもので，どちらかと言えば形態に重点を置いたものである。

Ⅰ. Ly 副詞

派生によって生じた2次副詞中，-ly で終る副詞は全副詞中圧倒的多数をしめている。この形のものは様態の副詞が殆どで，数は断然多くて4,446語中3,724語をしめていて，比率にすると83.8%である。上述の潜在的なものも含めると，その比率は更にたかまって，恐らく98%を越えるであろう。従って -ly 副詞全体としての使用頻度は高いが，各単語別に見ると，1次副詞に比べて使用頻度の著しく低いのが特色である。極めて稀にしか使用されないものが非常に多い。次の5種類に分けることが出来る。

(1)	形容詞 ＋ ly	3,269語
(2)	名詞 ＋ ly	30語
(3)	-ic で終る形容詞 ＋ ally	152語
(4)	現在分詞 ＋ ly	217語
(5)	過去分詞 ＋ ly	56語

以上の5種を個別に見てゆこう。

(1) 形容詞に -ly を附したもの

既述の如く，殆どすべての形容詞がこの可能性を有していると言える。併し少数の例外はある。たとえば each, every や，one を除いた two, three…等の数詞，what, which, such のように代名詞にもなるもの，own のように主として他の形容詞（相当語）と並用して強調に用いるものなどには，-ly がつかないものがあるし，old, golden や -ward(s) のつく語など，可能性が少いと思われるものも若干ある。(One に -ly がついた形は，only となっている。)

この類の副詞で，early のように，形容詞と副詞の両様に用いられるものも相当あるが，-ly のつかない形容詞のままの形で副詞としても用いられ，且つ -ly を附した副詞形も並用される語が次の57語ある。

chief, clean, clear, close, dead, dear, deep, direct, double, due, easy, express, fair, false, fine, firm, first, flat, full, hard, heavy, high, hollow, hot, just, large, last, late, loud, low, middling, mighty, monstrous, near, new, nice, right, rough, scarce, second, sharp, short, slow, soft, sore, sound, still, swift, thick, through, tight, true, upward, very, wide, wild, wrong

この中で，double は doubly に，due, true はそれぞれ duly, truly になり，easy, heavy, mighty, very はそれぞれ y がなくなって -ily となる。又 chiefly, cleanly, deadly, lowly の4語は形容詞としても用いられ，その lowly から更に lowlily が派生する。(それも計算に入れるならば58語となる。) これらの58語については，-ly のつく前と後とでは，同じ副詞でも，必ずしも同じ意味ではなく，使い分けのある場合もある。(Through と throughly 等。)

又 -ly で終っていながら，副詞としては用いられず，もっぱら形容詞として用いられるものがかなりあるが，これは次の(2)の場合が殆どであって，現在の用法だけに限って見れば，sickly などがあるが，obsolete な用法も考慮に入れれば，これもこの限りではないので，形容詞に -ly のついた形で，副詞用法のない例はないと考えてよいと思う。

全部で3,269語の ly 副詞中の74語は，COD では，特に重要なものとして，形容詞とは別見出しで独立して扱われている。

尚 seemly は，Old Norse で same に -ly がついたものであるから，この項に含まれる。

(2) 名詞に -ly を附したもの

名詞に -ly を附して派生した語は，haply, momently, namely, partly の4語を除いて，何れも形容詞であって，その中26語が副詞としても用いられる。上の4語を加えて，この項に属する副詞は次の30語である。Namely は Scotch に限って形容詞用法もある。

brotherly, bodily, childly, daily, deathly, easterly, fatherly, fortnightly, friendly, ghastly, haply, hourly, knightly, leisurely, lubberly, minutely〔mínitli〕, momently, monthly, namely, nightly, northerly, partly, quarterly, slovenly, soldierly, southerly, termly, weekly, westerly, yearly

(同じ条件にあった motherly と sisterly は，副詞用法としては早くから obsolete になっている。)

この中で，childly, haply, knightly, slovenly は，現在では archaic 又は poetic で，termly は rare と明示されている。副詞としては用いられず，もっぱら形容詞として用いられるこのような語は，約80語程であるが，現在は obsolete でも，曽っては副詞としても用いられたものがあるので，その数の確認は容易ではない。この種の形容詞を数例だけあげれば，次の通りである。

earthly, godly, jewelly, lordly, wifely

(但しこれも現在ではの話で，古くには，又現在でも極めて稀には副詞になり得る。)

尚(1)(2)を通じて，〔i〕と発音される y で終る名詞，形容詞に -ly がつく時は -ily となるが，〔ai〕と発音される y で終るものは -yly で，slyly と shyly がその例である。

(3) 形容詞に -ally を附したもの

形容詞で -ic で終るものは，-ical の形にもなるものが多い。その場合，-icly と -ically の2通りの副詞が生ずることがある。(Rusticly と rustically 等。) ところが，-ic の形だけあって，現在では -ical の形は普通用いられない形容詞で，-icly とはならないで，-ically となる副詞が152語ある。もっとも，この場合も obsolete な用法にまで立

入ると，この数字は変ってくることは勿論である。数例を列挙すると：

apheliotropically, bureaucratically, cinematographically, enthusiastically, onomatopoetically, photographically, scenographically

これらの副詞には共通した特色がある。それは一見して所謂「長いむつかしい言葉」が多いことでも分るように，ギリシヤ語原の学術用語や，それに近い語が殆どで，比較的歴史の新しい，日常滅多に使用されないものが多いことである。但し -ical の形の形容詞があるかないかは，一応 CED に載っているかどうかによる判断であって，潜在的には全部あり得ると言ってもよいであろう。

(4) 現在分詞 (-ing) に -ly を附したもの

現在分詞ではあっても，殆ど形容詞として定着し，辞書でもそのように独立見出しになって，形容詞扱いされているものが殆どであるから，(1)の項で一緒に扱っても差支えない。併しこれ以外にも，動詞はすべて現在分詞をもっている以上，このような副詞を作ることは可能なわけで，潜在的なものが多い点では(1)と同様である。OED の中に，現在分詞から派生したものとして載っている副詞の数は 217 語であるが，これは勿論日常特によく用いられるものの，およその見当を示すものにすぎず，大した意味はないから，数例をあげるに止める。

amazingly, bewilderingly, charmingly, despondingly, embarrassingly

(5) 過去分詞に -ly を附したもの

勿論 -edly となるものが大多数をしめるが，mistakenly のように不規則変化のものも見られる。過去分詞の数は現在分詞と同数である筈であるが，副詞にして用いられるのは，現在分詞の場合の 3 分の 1 位である。COD に明記されているのは 56 語で，比較的少いので全部列挙してみよう。

admittedly, allowedly, amazedly, animatedly, assuredly, avowedly, composedly, confoundedly, confusedly, confessedly, consumedly, contentedly, dazedly, dejectedly, dementedly, designedly, detachedly, disappointedly, discomposedly, discontentedly, disgustedly, disjointedly, distortedly, distractedly, dispersedly, enforcedly, exaggeratedly, excitedly, forcedly, groundedly, heatedly, hurriedly, impliedly, interruptedly, jaggedly, misguidedly, mistakenly, offendedly, perplexedly, presumedly, pretendedly, protractedly, refinedly, repeatedly, reservedly, restrainedly, restrictedly, rootedly, secludedly, starchedly, statedly, supposedly, surprisedly, temperedly, unitedly, vexedly

以上であるが，ちなみに(1)〜(5)の語数を，頭文字別に表にしてみた。（末尾の表Ⅰ）

Ⅱ．派生語として生じた他の副詞

派生副詞中，ly 副詞については最初にとりあげたので，ここではそれ以外の派生副詞を類別に従って扱うこととする。先ず接尾辞をもつものと，接頭辞をもつものとに大別される。接尾辞の方から先に見てゆくが，-ly に次いで多いのは，-ward(s), -wise, -like, -ways, -long（又は -ling）の順である。属格と対格については，後でまとめて述べる。

それから -fold というのがあるが，これは事実上数字の存在するだけあるに等しいから，全部ひっくるめて 1 語として数えてある。但し onefold は形容詞だけで，副詞としては普通用いられていない。COD には twofold から twelvefold までと，twentyfold, hundredfold, thousandfold 及び millionfold が載っているが，eightfold と elevenfold だけがおちている。数詞以外には blindfold というのがある。

(1) 接尾辞 -ward(s) をもつ副詞

これは全部で35語収録されている。これには -ward と -wards の 2 形があって，前者はすべて形容詞としても用いられ，eastward, westward, northward, southward, inward, outward の 6 語は，更に名詞としての用法もある。Hellward と streetward の 2 語は -wards の形をもたず，leeward の場合は -wards 形は obsolete になっている。語尾に s のついた形は副詞だけで，それ以外の機能はもたないが，これは所謂 adverbial genitive で，OE において属格が副詞として用いられた名残りである。総数35というのは，語尾に s がある場合とない場合をひっくるめて 1 語，即ち afterward と afterwards を同一の語として数

えた数字であって，その点最初に副詞の総数は4,446とと言った時の数え方とは異なっている。首尾一貫しない点はどうかとも思ったが，ここでは便宜上このように扱ったことを，念のためお断りしておく。さてこの全35語中，名詞に -ward(s) を附したものと，副詞に -ward(s) を附したものがある。後者は，afterward(s), downward(s), forward(s), inward(s), onward(s), outward(s), toward(s), upward(s) の8語で，他は全部前者に属する。数例をあげると：cityward(s), homeward(s), seaward(s), Christward(s), Romeward(s) などであるが，辞書に載っていなくても，名詞に -ward(s) を附することによって，自由に幾らでも作ることが出来るので，これも潜在的な数は大きい。

(2) その他の接尾辞をもつ副詞

COD にある総数は，-wise 21語，-way(s) 10語であるが，前者は -ward(s) と同様，かなり自由に新語を作ることができる。後者は s がつく時は adverbial genitive である。この両者は同じ意味をもっていて，現に次の8対は，どちらを用いても全く同じである。

anyways, anywise; broadways, broadwise; endways, endwise; edgeways, edgewise; leastways, leastwise; lengthways, lengthwise; noways, nowise; sideways, sidewise(sidewards もほぼ同じ)

Always と someways だけは，それに相当する alwise, somewise という形が，現在では obsolete 又は archaic になっている。以上の中で alway, anyway, noway, sideway, someway は語尾に s をもたない形も並用されている。これは adverbial accusative と呼ばれるものである。

Way(s) は名詞の後についた場合と，形容詞の後についた場合が半々であるが，-wise は14語が名詞の後につき，7語が形容詞につく。但しこの形容詞は名詞の意味もあるので，その判定には問題があるかもしれない。

(名詞＋wise)

altarwise, archwise, chequerwise, coastwise, diamondwise, endwise, edgewise, pyramidwise, scissorwise, saltirewise, stepwise, wedgewise, lengthwise, sidewise

(形容詞＋wise)

broadwise, contrariwise, leastwise, likewise, nowise, otherwise, anywise

この21語の中で，coastwise だけが形容詞としても用いられ，他は現在では副詞のみに用いる。

次に -ling と -long がある。前者は主として形容詞について状態を示す副詞，後者は名詞について方向を示す副詞を作る。

darkling, flatling, middling, sideling（以上4語）

endlong, headlong, sidelong（＝sideling）（以上3語）

又 -about(s) があって，hereabout(s), thereabout(s), whereabout(s) の3語で，いずれも副詞についている。

最後に疑問副詞につけられる -ever がある。However, whenever, wherever; howe'er, whene'er, where'er; howsoever, whensoever, wheresoever の9語である。

(3) 形容詞接尾辞をもつ副詞

元来形容詞接尾辞である -like をもつ副詞は，COD では brotherlike, chameleonlike, crablike, deathlike, fatherlike, mistlike の6語だけで，motherlike は形容詞用法しか出ておらず，sisterlike は全く出ていないが，この両者も加えて8語としたい。I (2)で述べた -ly の場合といい，この -like の場合といい，男性形よりも女性形の方が早く obsolete になっているのは，偶然か特別の理由によるのか，今の所判断がつかない。上述の8語のほかにも例によって幾らでも作れるし，又実際に用いられてもいる。これらの接尾辞と，若干の接頭辞に関しては，Anglo-Saxon 時代と同様の新語造成力は全く失われていない。Belike は語原的にはこれと別であるので，この中には含めていない。

名詞に -ous のついた monstrous, wondrous, precious, previous も形容詞接尾辞を伴なう副詞である。Doubtless, questionless の less も一応ここに含まれる。

(4) 接頭辞 a- をもつ副詞

接頭辞は前置詞又は副詞で，その後にくるのは名詞が最も多いが，続いて形容詞，副詞，動詞である。

最もよく見られるのは a- という接頭辞であるが，これは語原的には数種類あって，一様ではない。大多数は on（又は in）の意味をもった前置詞であるが，away, anew, afresh, apiece などの a- は厳密に言うと同じものではない。併しここでは全部ひとまとめにして列挙してみる。尚 along は and-long であって，and は against の意味をもつものであるが，これもここに含めることにする。

（名語の前につくもの）

aback, abaft, abask, abeam, abed, ablaze, abloom, ablush, aboard, abreast, across, adown, adrift, afield, afire, aflame, afloat, afoot, agape, aground, ahead, aheap, ahull, ajar, alee, alive, aloof, amain, amiss, anon, apace, apiece, aright, ashore, aside, aslant, asleep, asquint, astern, astir, astride, atilt, atop, atrip, away, awhile

（形容詞の前につくもの）

abroad, adry, afar, afresh again, alike, along, aloud, alow, anew, around, awry

（副詞の前につくもの）

about, above, afore, athwart

（動詞の前につくもの）

aboil, abroach, astraddle, asunder

以上で名詞につくもの46語，形容詞につくもの12語，副詞につくもの4語，動詞につくもの4語，計66語である。

このほかに外国語の前置詞に由来するものが5語ある。先ずフランス語の â による apart, apeak, apropos があり，Old French の en から生れた agog があり，Old Norse の â を源とする aloft がある。

(5)　その他の接頭辞をもつ副詞

アルファベット順に追ってゆくと，副詞 all が縮少されて出来た al- が7語ある。

alone (all one), almighty, almost, already, also, altogether, always

この中の almost と always は -most, -ways という接尾辞の場合の対象にもなる。Always が名詞，also と altogether が副詞，他は皆形容詞についたものである。

Any- のつくものには，anyhow, anyway(s), anywhere があるが，anyway(s) は接尾辞のところで既に扱っている。

次は be であるが，これは元来 about の意味をもった OE の by から起ったものである。名詞の前にくるのが because, besides, betimes, between の4語で，その中 besides と betimes は adverbial genitive の -es がついたもの。形容詞の前にくるのが，behind, belike, below, beneath の4語，副詞の前にくるのが before, beyond の2語で，計10語になる。

Down のつくのが downhill, downstairs（以上名詞），downright（形容詞）の3語。Downward(s) は副詞 down に接尾辞 -ward(s) がついたものと考える。

次は in であるが，全部名詞の前にくる。2種あって，前置詞の in による inboard, indeed, indoors, inshore, instead と，形容詞の in による inland, inside の計7語である。Inward(s) は接尾辞 -ward(s) の方で既に扱っている。

否定の副詞 ne 又は na が（代）名詞の前について出来た neither (na-either), none (ne-one) と，副詞の前につく never (ne-ever) とその省略 ne'er がある。

同じく否定の意味をもった noway(s), nowise, nowhere, nothing の no- があるが，前2者は既に接尾辞のところで扱った。

Out は名詞の前で outboard, outdoors, outside, 副詞の前で outright の計4語があるが，この中で outside の out だけは，inside の in と同様形容詞である。Outward(s) は接尾辞 -ward(s) の方に入れる。

Over は形容詞の前にくる overmuch のほかは全部名詞の前につき，oversea(s), overnight, overland, overarm, overboard, overhead, overleaf, overside, overtime の計10語。

副詞を作る前置詞 per は，perhaps だけしか見当らないが，この場合の名詞は複数形をとっている。

前置詞 to は与格の名詞について，today (to-day), tomorrow (to-morrow), tonight (to-night) の3語。

最後に under であるが，名詞の前にくる underfoot, underground, underland と，形容詞の前にくる underneath の4語がある。

以上であるが，接尾辞の場合と違って，接頭辞が形容詞について，その形容詞に -ly がついて出来る副詞が数多くあるが，それはここでは取扱っていない。

Ⅲ．英語の副詞として用いられる外来語

語原的にギリシヤ語やラテン語に由来する副詞は極めて数が多い。ここではそのようなものではなくて，全く外国語のままで英語の副詞として現在用いられているもので，辞書ではイタリックで示されているものだけを取り扱う。これらの語は英語にとり入れられた歴史が比較的新しいもので，incognito のように完全に英語の副詞扱いをした語との間に，はつきり線をひいて区別すべき基準はあいまいである。又強引に用いれば極端に言って，どこの国のどの語でも英語の副詞になり得るわけだから，どの語までをこの範囲に入れるかという判断も，例によって客観性に乏しい。従って辞書に載っているのは，氷山の一角以下で，潜在的に可能な語数は殆ど無限と言ってよい。現に辞書によって，どの語が載っていて，どの語が載っていないかは，この種の語が1番差異が大きい。COD は比較的多くこれらを取り入れている辞書である。OED にはなくて，COD に見出される語がかなりあって，総数126語である。多い順に，ラテン語（66語），イタリア語（32語）フランス語（27語），ギリシヤ語（1語）である。

(1) ラテン語

Ad initio, a priori, ex parte, post mortem など，phrase をなすものが多い。頭文字別にして，(a) 18, (b)1, (d)1, (e)6, (g)1, (h)1, (i)7, (l)3 (m)2, (n)2, (o)1, (p)8, (s)4, (t)4, (u)3, (v)4, 総数66である。このうち，a と e とは，ad, ex などという前置詞を伴うものが多いために数が多いが，i などはラテン語本来の副詞が殆どである。ラテン語の phrase だったものは43，副詞だったものは（名詞の ablative 等であったものも数語含めて）23で，後者だけ列挙すると：

adeundem, alias, alibi, ergo, gallice, ibidem, idem, imprimis, infra, initio, item, Latine, literatim, non, obiter, passim, primo, sic, simpliciter, supra, ter, ut, videlicet

以上であるが，scilicet がラテン語の scire licet から生れているように，発生的に見てラテン語系の副詞となると，その数は実に多い，

(2) その他の外国語

フランス語から転用された副詞27語（句）中，hors 1語を除いて，あとの26は phrase である。特に，à～(5), au～(4), en～(9) という成句が多い。この数の中に含めなかったが，tête-à-tête, vis-à-vis などは勿論フランス語である。併しこれらは完全に英語の中に消化されている。又 parcel, pell-mell, plumb などが，それぞれフランス語の parcelle, pêle-mêle, plomb から出ていることは明らかであるし，ノルマン征服後にフランス語から英語の中に取り入れられた単語が，現在の英単語の半数をしめることを思えば，副詞にもこのような例が多いのは当然であろう。又 plain, quite, square などのように，Old French から出ているものも多い。Anglo-French から生れた法律用語で，cy pres というのもある。

次にイタリア語は32語で，フランス語を上回っているが，実はこの中の31語は音楽用語である。フランス語の場合と違って，その殆どは元来イタリア語の副詞である。数例をあげるに止めるが：

agitato, allegro, assai, prestissimo 等

2語からなるのは sotto voce と del credere 位のもので，後者は音楽と無関係の唯一の語で，商業用語である。尚もともとイタリア語に端を発するものならば，alfresco, incognito, solo など，フランス語ほどではないが，数多くある。

ギリシヤ語から来た副詞は boustrophedon である。これを外国語扱いするとすれば，COD ではイタリックにして扱われてはいないが，以上の126語のほかに，同じ扱いをしてもよさそうに思われるものに次の6ケ国語がある。先ずスコットランド語が北方方言に多いのは論を待たないが，普通の英語に副詞として取り入れられているものに，ablings, ablins, agley, forby(e), gey, lang syne, unco の7語がある。あとは，1語づつで，マレー語の amuck（amok とも綴る），Pidgin English の chop-chop，ヒンズー語の phut，スペイン語の pronto（スラングとして用いられる），スウェーデン語の squab である。これらの12語と，前掲の126語の区別は，歴史の古さと頻度に根拠を求めるほかはあるまい。

Ⅳ．複合によって出来た副詞

元来2語以上の別々の語が複合して一つの副詞となったもので，接頭辞や接尾辞のように拘束形式による派生とは異るものである。次のような組み合わせと種類がある。

(1) 前置詞＋名詞
(2) 形容詞＋名詞
(3) 名詞＋名詞
(4) 名詞＋形容詞
(5) 副詞＋形容詞又は副詞
(6) 動詞を含むもの
(7) 接続詞で結ばれるもの（群副詞）
(8) 反復，擬声，混合によるもの
(9) 外国語から来た複合語

(1) 前置詞の後に名詞が来るもの

語原的には，前置詞と名詞が組み合わされて出来た副詞について，Ⅱ(4)(5)の項で述べたが，そのような副詞が更に前置詞となって，名詞と組み合わされたもので，次の3語があげられる。

above(-)board, beforehand, behindhand

これらによく似た forsooth のように，古く OE にさかのぼるものがアクセントが後半にくるのに対して，皆前半にアクセントをもち，beforehand はどのようにして成立したか不明で，behindhand は明かにその類推によって出来たもの。Above-board はカードの用語から生れた。

そのほかに，副詞のついた形容詞が名詞的に用いられて，前に前置詞のついた，3語からなる inasmuch と insomuch があり，共に ME 時代に出来たものである。

(2) 形容詞が名詞の前についたもの

Baresark(＝berserk), meantime, meanwhile などがある。何れも名詞としても使用される。又これは群副詞と呼ぶべきものだが，代名詞に定冠詞のついた the same がある。

(3) 名詞が二つ並ぶもの

Hap-hazard, piecemeal, point-device, cock-horse の4語が一応この組み合わせであるが，成立の由来は様々であって，一様ではない。

(4) 名詞の後に形容詞がくるもの

名詞が副詞句相当の意味で形容詞の前に置かれているもので，rentfree, waisthigh, waistdeep がある。何れも間に hyphen がおかれることもあり，形容詞としても用いる。

(4) 副詞の後に形容詞又は副詞がくるもの

副詞が二つ並ぶのは，moreover, throughout, foremost, uppermost であるが，接頭辞や接尾辞的に考えてもよい。変っているのは nowadays で，now on day という3語（副詞に副詞句がついたと考えられる）に，adverbial genitive の -s が加わったものである。次に forthright の right は形容詞，副詞の両様になり得るもので，down-right とよく似ているが，forthright は形容詞として用いる時と，副詞として用いる時とで，アクセントの位置が異る点に特色がある。

過去分詞を形容詞に相当するものとしてここに入れるならば，broad-cast がある。

尚 notwithstanding は「副詞＋現在分詞」，nevertheless は「副詞＋副詞＋副詞」であるが，none the less や all the same などという phrase と機能において実際上同じである。

(6) 動詞を含むもの

動詞の後に名詞が目的語の意味でついたものが1語だけあり，point-blank がそれである。(3)の所であげた point-device とよく似ているが，後者の point は名詞であって，別物である。助動詞と動詞の組み合わせに would-be と maybe がある。

(7) 接続詞で結ばれるもの（群副詞）

大てい3語から成り，COD には by and by, pro and con が載っている。併し adverbial accusative 的な句である step by step, day and night, tooth and nail なども全部この類であるから，同じ扱いをすれば，数は膨大なものになる。

尚 upside-down は一見「名詞＋副詞」であるが，実はこれは ME で up so down だったもので，up and so down の意味であるから，ここに入れてもよいであろう。

(8) 反復，擬声，混合によるもの

Reduplication によるものは，chop-chop(Pidgin), so-so, seesaw があり，criss-cross は半ば Christ's cross から来ているが，半ばは cross の反復によるものである。Imitative として生れたものには，ding-dong, pit-(a-)pat, helter-skelter がある。

混合によるものは，random と tandem が混合

して出来た randem がある。

尚これらによく似ているが，成立の事情不明のものに，higgledly-piggledy, hugger-mugger があり，フランス語を起原とするが，やはり詳細は不明の zigzag がある。

(9) 外国語から来た複合語

既にⅢのところで一部述べたが，今改めて複合語の例をあげると：

impromptu（ラテン語），malapropos, tête-à-tête（以上フランス語），perforce, pursuant, cap-a-pie（以上古代フランス語）

Ⅴ．他品詞からの転用と他品詞との兼用

早くから副詞として OE 以前（多くは Old Teutonic）の段階から発達して来た1次詞副には次の44語がある。

aft, after, as, aye, best, better, but, by, down, early, ever, far, fore, forth, here, hither, how, in, near, no, on, off, oft, out, rather, seldom, so, soon, then, there, through, thus, to, too, under, up, well, when, where, whither, why, within, without, yet

以上のうち，but, by, fore, forth, in, near, off, on, through, to, under, within, without は前置詞と，so, where は接続詞と，それぞれ密接な関係をもちつつ発達した。Best, better, early, far, hither, near, off, oft, out, seldom, soon, there, well などは，後に形容詞用法を生じたもので，up と down は前置詞に，when と yet は接続詞に，それぞれ転用されたものである。After と rather は元来は比較級として生れたものである。

これ以外の副詞は，既に派生語，複合語，外来語の所で述べたもののほかは，名詞，代名詞，形容詞，動詞の何れかから転用されたものか，或いはこれらの諸品詞と密接に関係しながら発達したものである。これから順を追ってその関係を見てゆく。

(1) 名詞との関係

名詞と副詞とに兼用される語は194語ある。この中には，OE 時代に名詞の属格，与格，対格が副詞として用いられた名残りを止めているものがある。

We run *nights*, and laid up and hid *daytimes*. (Mark Twain) (genitive)

He went *places*. (accusative)

なども皆含めていると，かなりの数になり，Ⅱで既に扱った -ward(s), -ways, anyway, someway などもこの類であるが，ここでは次の17語だけ，普通よく用いられる単純副詞の例としてあげておきたい。

(Adverbial accusative) all, any, aught, east, home, north, south, west

(Adverbial dative) whilom

(Adverbial genitive) else, hence, needs, once, since, thence, twice, whence

ただこれと同じ用法として，最近 in, on, for 等の前置詞が省かれて，名詞だけで副詞の働きをしている例がよく見られる。数例あげると：

…they made the announcement *Wednesday*. (The Mainichi, 1970)

Thursday, Mr Bourassa…announced a readiness to free…(The New York Times, 1970)

…which offically began *Aug*. 7… (The New York Times, 1970)

He worked *years* to have enough schools. (Duane Bradley, 1961)

現在のところ，同じ新聞雑誌でも，前置詞を伴う形と両方が並用されている。

このほかに名詞から転用されたものには，quasi-adverb として用いられるようになった part, plenty や，フランス語の名詞から転化した parcel, plumb があり，aback の aphetic である back や ride in post が略されて出来た post なども，一応形の上では名詞と同じである。Souse は名詞と動詞の両用法をもつ語から転用されているが，名詞用法の方が古いので，ここに入れてもよいであろう。

名詞に準じて代名詞もここで扱うなら，that と the を代名詞から転用された副詞としてあげてよいであろう。代名詞の場合は指示形容詞とも関連してくる。この他に一応副詞と代名詞を兼ねる語は，any, as, both, but, either, neither, none, other so, some, when, where, whence, yon がある。

(2) 形容詞との関係

もともと形容詞で，後に副詞に転化したと考えてよいものに，少くとも次の41語がある。

big, bloody, chief, clean, dead, either, fine, first, feint, just, half, ill, lief, mighty, more, new, nice, opposite, pretty, prior, proud, quick, rough, sheer, short, slack, slow, small, some, sound, square, stark, still, stony, subject, swift, thick, tight, true, wild, yon

OE 時代，形容詞に副詞語尾 -e を附していたのが，語尾脱落で同形になったのが次の22例である。

bitter, bright, broad, dear, deep, even, evil, fair, fast, foul, hard, heavy, high, hot, late, light, long, loud, right, sharp, sore, wide

このほかに，OE 以前には形容詞と一応異る形をとっていたが，後に同形になったものに further, over, worse, worst がある。

併し OE から形容詞と形の区別なく，両様に用いられてきたものも多く，

enough, fain, full, last, least, less, little, most, next, nigh, other, soft

などがそうであるが，このうち enough, full, last, little, next, nigh は名詞， other は代名詞としても用いられた。現存の用例では fain と least は形容詞用法の方が古く，enough, full, last, less は副詞用法の方が古い。形容詞は predicative use が副詞に転化した場合が多いようである。

次に ME 以後に Old French, Old Norse などを語原とする語から英語に入って，形容詞ならびに副詞として用いられてきたものに次のようなものがある。(*印は名詞としても用いるもの)

ago, both, clear, close, contrary*, double, due, easy, express, false, farther, farthest, firm, flat*, fresh*, furthest, glib, hollow*, jolly, large*, left*, low, midst*, much, often, plain, ready*, scarce, straight*, thwart, very, wrong, yonder

この中の jolly は OF の joli から出たもので，I で扱った -ly 語尾とは無関係である。

副詞との兼用が1番多い品詞はやはり形容詞で，少くとも382語はあげられる。そのうち34語は predicative adjective としての用法だけがみとめられる。この382語中，132語は形容詞と共に名詞も兼ね，8語は形容詞と動詞を兼ね，36語は形容詞，名詞，動詞を兼ねて，4品詞兼用となっている。前置詞，接続詞をも兼ねるものについては，その項にゆずる。

(3) 動詞との関係

この場合，動詞の原形と分詞とに分けて考えてみる必要がある。前者の場合，動詞から転化して出来た副詞は次の7語である。

bang, bolt, bounce, bump, counter, flop, pat

このうち bolt は名詞でもあるので，判定がむつかしいが，古い用例からみて，動詞の方に入れた。現在，副詞と動詞の両方に用いられる語は，上の7語を含めて60語ある。

次に分詞の場合であるが，分詞構文的な用い方をすれば，殆どどの分詞でも副詞になり得る。現在分詞の形をもっていて，現在 COD に adv. と明示されているのは：

according, passing, shocking, spanking, thundering

過去分詞から生れたものは：

cursed, damned, deuced, past

但し分詞に関しては見落しがあるかもしれないし， confounded のように，他の辞書には載っているものも多いであろう。過去分詞中 deuced は同じ -ed でも他の語のそれと OE では形が異るが，もっと古く Old Teutonic では恐らく同じであろう。尚両分詞の場合とも，例外なく形容詞，副詞兼用であるが，これは(2)の項の数には含めていない。

(4) 前置詞及び接続詞との関係

これらは副詞発達の初期から副詞とは密接な関係をもってきて，互に転用されてきている。現在前置詞と副詞の両方に用いられるのは56語で，接続詞と副詞の兼用は19語，この三つの品詞に兼用されるのは，after, before, but, notwithstanding, since, without の6語である。しかも全体の半数以上は更に他の品詞とも兼用されている。

尚，少くとも現在の用法では，前置詞だけで副詞のないものは20語 (among, at, from, unto 等)，接続詞だけで副詞のないものは18語 (or, and, if, although 等) があり，このうち6語 (against, except, excepting, for, till, until) は前置詞と接続詞の両方に用いるが，副詞には用いない。

前置詞，接続詞との関係については，ここでは詳述する余裕がないが，最後に間投詞との兼用が

11語あることを書き添えておく。

Ⅵ. その他の諸問題

(1) 固有名詞から生れた副詞

固有名に由来する形容詞については，R.W. Chapman の研究があるが，ここではそのような詳細な研究を展開する余地はないので，固有名に由来する副詞として，COD から拾い出すことの出来た次の13語をあげるに止める。それに形容詞の場合よりも，使用される数が遙かに少いことも事実であろう。

Calvinistically, Christward(s), Christianly, Gothically, Hebraically, Hebraistically, hymeneally. Napoleonically, Roman-Catholic(al)ly, Romeward(s), Satanically, Scot(t)ice, Socratically

(2) 擬声，短縮等によって生れた副詞

Imitative として生れた副詞は，Ⅳ(8) であげたものを除いては，plop, pop, slap, smack, smash, tantivy がある。

短縮形として出来たものとしては，次の語がそれぞれ（ ）内の語から出ている。

chock (chock-full), extra (extraordinary), e'er (ever), not(nought), o'er(over), thro' 又は thro(through), 'tween(between)

尚成立の由来が不明のものとして，次の8語がある。（ ）内の数字は，その語が始めて文書に現れた世紀を示す。

akimbo(15), askance と askant(16,17), askew (16), aslope(15), astray(14), cock-a-hoop(15), pick-a-back(16), topsyturvy(16)

(3) 外国語起原の単純副詞

外国語そのままで用いられているものと，複合形のものについては既に述べたが，現在では完全に英語化しているもので，複合形でないものを12語あげておきたい。

（中世英語の時に英語に入ったもの）

fro, nay（以上 Old Norse), galore(Irish), gratis(Latin), quite(Old French)

（近世英語になってから入ってきたもの）

instanter, interim, Scot(t)ice, seriatim, supernaculum, tandem（以上 Latin), direct (French), incognito(Italian)

(4) 特殊用語の副詞

所謂専門用語として用いらるものには，音楽用語31語（既述），海員用語が8語（aback, abaft, abeam, ahull, alow, ataunto, astern, inboard), 商業用語がイタリア語の所であげた1語の他に middling, 法律用語が既述の cy pres と ex parte である。

このほかに poetical (betwixt, childly, fleet, knightly, o'er, wondrous), archaic (23語), rare (chilly, whitely, termly), slang(11語), colloquial (devilish, plaguy, slick) などという表示が見られることを序でに記しておく。

（あとがき）

途中何度もお断りしたように，分類や範囲の限定については異論も多いと思われるし，点検に充分な手間をかける時間がなかったので，数字の詳細な点では訂正（特に脱落分の追加）を要する箇所が恐らくあるであろう。併しこれでもって，色々な傾向等について見当をつける上には支障ないと信ずるし，後日手を加えて完全なものにしたいと思う。あまり大して意味のない，アルファベット別の表を添えたのは，Check して下さる方があった場合の便宜のためである。

表Ⅰ　（COD による常用 -ly 副詞の語数）

	副詞総数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)〜(5)計
A	368	200	0	12	3	6	221
B	123	70	2	1	5	0	78
C	322	277	1	7	6	6	297
D	267	180	2	15	24	13	234
E	182	118	1	16	8	3	146
F	184	136	3	4	7	1	151
G	120	83	1	7	21	1	113
H	113	74	2	10	2	2	90
I	376	336	0	6	8	2	352
J	27	22	0	0	2	1	25
K	8	5	1	0	1	0	7
L	134	92	2	3	12	0	109
M	163	129	3	5	3	2	142
N	83	48	3	3	0	0	54
O	117	81	0	7	1	1	90
P	387	300	1	24	11	4	340
Q	22	13	1	0	3	0	17
R	196	164	0	5	11	6	186
S	510	358	3	21	48	5	435
T	243	167	1	5	22	1	196
U	305	289	0	0	2	1	292
V	87	69	0	1	4	1	75
W	97	52	2	0	13	0	67
X	0	0	0	0	0	0	0
Y	8	3	1	0	0	0	4
Z	4	3	0	0	0	0	3
計	4,446	3,269	30	152	217	56	3,724

表Ⅱ　（接尾辞，接頭辞を有する副詞の語数）

	—ward(s)	—wise	—way(s)	その他の副詞接尾辞	形容詞接尾辞	接尾辞を有する語の計	接頭辞を有する副詞
A	1	2	2	0	0	5	78
B	1	1	1	0	1	4	10
C	3	3	0	0	2	8	0
D	3	1	0	1	2	7	4
E	1	2	2	1	0	6	0
F	2	0	0	1	1	4	0
G	1	0	0	0	0	1	0
H	2	0	0	5	0	7	0
I	1	0	0	0	0	1	8
J	0	0	0	0	0	0	0
K	0	0	0	0	0	0	0
L	2	2	2	0	0	6	0
M	0	0	0	1	2	3	0
N	1	1	1	0	0	3	8
O	3	1	0	0	0	4	15
P	1	1	0	0	2	4	1
Q	0	0	0	0	1	1	0
R	2	0	0	0	0	2	0
S	8	3	2	2	0	15	0
T	1	0	0	4	0	5	3
U	1	0	0	0	0	1	4
V	0	0	0	0	0	0	0
W	1	1	0	4	1	7	0
X	0	0	0	0	0	0	0
Y	0	0	0	0	0	0	0
Z	0	0	0	0	0	0	0
計	35	18	10	19	12	94	131

（主として COD による常用のもの。—fold は除外）